

## 令和6年度「飼料用米多収日本一」の受賞者の決定について

農林水産省及び一般社団法人日本飼料用米振興協会は、令和6年度「飼料用米多収日本一」を実施し、農林水産大臣賞をはじめ各賞の受賞者を決定しましたので、お知らせします。

### 1. 「飼料用米多収日本一」の概要

「飼料用米多収日本一」は、生産技術の面から先進的で他の模範となる飼料用米生産者を表彰し、その成果を広く紹介することで、飼料用米生産者の生産に係る技術水準の向上を図ることを目的として実施しています。表彰区分ごとに、審査委員会で審査し優秀と認められた方々に各賞を授与しています。

#### 【表彰区分】

- ・ 単位収量の部
- ・ 地域の平均単収からの増収の部

#### 【褒賞区分】

- ・ 農林水産大臣賞
- ・ 農産局長賞
- ・ 全国農業協同組合中央会会長賞
- ・ 全国農業協同組合連合会会長賞
- ・ 協同組合日本飼料工業会会長賞
- ・ 日本農業新聞会長賞

### 2. 各賞の受賞者について

令和6年度の受賞者は、以下のとおりです。

#### （単位収量の部）

褒賞	受賞者（敬称略）	都道府県
農林水産大臣賞	株式会社あぐりてらす阿知須 代表取締役 長尾 誠大	山口県
農産局長賞	福井 慎也、福井 順一	愛媛県
全国農業協同組合中央会会長賞	有限会社佐久平インターナショナルファーム 代表者 池田 亮	長野県
全国農業協同組合連合会会長賞	猪俣 一徳	福島県
協同組合日本飼料工業会会長賞	株式会社ZEST 代表取締役 高橋 裕治	北海道
日本農業新聞会長賞	三輪農園株式会社 代表取締役 三輪 敏之	山口県

#### （地域の平均単収からの増収の部）

褒賞	受賞者（敬称略）	都道府県
農林水産大臣賞	農事組合法人ふながわ 代表理事 由井 久也	富山県
農産局長賞	池田 侯男	山口県
全国農業協同組合中央会会長賞	矢野 陸男	宮崎県
全国農業協同組合連合会会長賞	二宮 謙一	愛媛県
協同組合日本飼料工業会会長賞	有限会社原田ファーム 代表取締役 原田 武徳	山口県
日本農業新聞会長賞	久保 徳太郎	愛媛県

### 3.表彰式

---

期日：令和7年3月13日（木曜日）（予定）

会場：農林水産省本館7階講堂（東京都千代田区霞が関1-2-1）

### 添付資料

---

令和6年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

令和6年度「飼料用米多収日本一」審査委員名簿

「飼料用米多収日本一」実施要領

**【お問合せ先】**

農産局穀物課

担当者：中西、太田

代表：03-3502-8111（内線4846）

ダイヤルイン：03-3502-5965

## 令和6年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

### ○単位収量の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	単収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	株式会社あぐりてらす阿知須 代表取締役 長尾 誠大	山口県 山口市	北陸 193 号 オオナリ みなちから	353	863	水稲作付面積が73haという大規模な経営の中で、多くの水稲品種を組み合わせて作期分散を図りつつ、飼料用米の取組1年目で863kg/10aという高単収を実現している。実需者や地域の関係者と連携したほ場視察会など多収化に向けた取組や、営農支援システムや栽培管理支援システムを活用した省力化など、生産・経営の両面で模範となり得る積極的な取組が行われている。
農産局長賞	福井 慎也 福井 順一	愛媛県 西予市	北陸 193 号	421	792	水稲・麦・大豆のブロックローテーションに取り組みながら、経営面積(全品目作付け延べ面積)30haという大規模な経営の中で、作期分散も考慮しつつ品種選定を行い、高単収を実現している。ドローンや自作の除草用水田ボート、営農支援システムを活用して省力化に取り組むほか、畜産農家との耕畜連携にも取り組んでいる。
全国農業協同組合 中央会会長賞	有限会社佐久平インター ナショナルファーム 代表者 池田 亮	長野県 佐久市	ふくおこし	517	742	飼料作物や野菜等と水稲との輪作を行い、育苗における省力化や雑草防除対策等にも取り組みつつ、経営面積47haという大規模な経営の中で高単収を実現している。
全国農業協同組合 連合会会長賞	猪俣 一徳	福島県 会津美里町	ふくひびき	164	800	営農管理システムや土壌EC測定を活用した可変施肥等により省力化・低コスト化を図りつつ、高単収を実現している。地域の稲作部会で多収品種の周知・普及を行うなど、生産面・生産技術の普及・啓発の両面で優れている。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	株式会社 Z E S T 代表取締役 高橋 裕治	北海道 秩父別町	そらゆたか	2,938	776	経営面積32haのうち29haという圧倒的な飼料用米の作付面積の下で、高温・干ばつ対策を含めた各般のきめ細かな作業の積み重ねとスマート農業の導入等により省力化・低コスト化を図りつつ高水準の単収を実現している。更に、積極的に農地集積も進めて地域におけるモデル的な役割を果たしている。
日本農業新聞 会長賞	三輪農園株式会社 代表取締役 三輪 敏之	山口県 山口市	北陸 193 号 みなちから	1,033	769	飼料用を含む水稲と、裏作麦の作付け体系で水田の高度利用を実現しながら、大規模な経営の中で作期分散を図りつつ、地域平均より243kg多い単収769kg/10aを実現している。鶏ふんを1トン/10a投入するなど、実需者とも連携して耕畜連携にも力を入れている。

## 令和6年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

### ○地域の平均単収からの増収の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	地域平均単収 からの増収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	農事組合法人ふながわ 代表理事 由井 久也 <small>よしい ひさなり</small>	富山県 朝日町	やまだわら	608	279	水稲と大豆のブロックローテーションに取り組みながら、経営面積（全品目作付け延べ面積）53haという大規模な経営の中で、堆肥等を活用した丁寧な土づくり、自前のドローンを活用した適期防除などに取り組んでいる。本年からは更に栽培管理支援システムを導入して追肥を最適化し、収量の安定化を図りつつ省力化・低コスト化に取り組み、増収量279kgという高単収を達成している。
農産局長賞	池田 侯男 <small>いけだ よしお</small>	山口県 山口市	オオナリ	125	254	多収性に加えて耐病性・耐倒伏性・脱粒性等も考慮した品種の選定により多収化を図るとともに、実需者や地域の関係者と連携したほ場視察会など多収化に向けた取組にも参画し、高収量を実現している。育苗・田植えにおける省力化や、堆肥を用いた土づくり、立毛乾燥による乾燥コストの低減等の取組も行われている。
全国農業協同組合 中央会会長賞	矢野 陸男 <small>やの むつお</small>	宮崎県 日向市	ひなたみのり	80	202	基本技術をしっかりとおさえ、高収量を実現している。経営面においても、中長期的な視点で作付け品目を判断し、飼料用米の取組を定着させている。
全国農業協同組合 連合会会長賞	二宮 謙一 <small>にのみや けんいち</small>	愛媛県 大洲市	北陸 193 号	710	229	もみ殻や稲わらを利用した丁寧な土づくりや、葉色を見つつ追肥を検討するなどこまめな栽培管理に努め、高収量を実現している。地域の飼料用米研究会に参画し活動を行う中で、生産技術の向上と地域の活性化に取り組んでいる。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	有限会社原田ファーム 代表取締役 原田 武徳 <small>はらだ たけのり</small>	山口県 山口市	夢あおば みなちから	702	189	平成22年の飼料用米の作付け開始以降、実需者との耕畜連携によって着実に地力の向上を図り、経営面積18haのうち7haを飼料用米生産に充てる中で、スマート農業の導入、圃場の大区画化等のモデル性ある取組と高水準の単収を実現している。
日本農業新聞 会長賞	久保 徳太郎 <small>くぼ とくたろう</small>	愛媛県 内子町	北陸 193 号	186	281	過去に飼料用米に取り組んだ際には収量が上がり止めていたとのことだが、令和4年に品種を見直して再開してからは単収が向上し、高収量を実現している。稲わらのすき込みと一発肥料に加え、追肥の必要性も検討しつつ多収を追求している。

# 令和6年度「飼料用米多収日本一」

## 審査委員名簿

(敬称略)

東京大学 名誉教授

谷口 信和

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構  
中日本農業研究センター研究推進部技術適用研究チーム  
兼転換畑研究領域畑輪作システムグループ 主席研究員

中野 洋

株式会社トマル 常務執行役員

櫻井 康生

生活クラブ生活協同組合・神奈川 副理事長

籠嶋 雅代

全国農業協同組合中央会農政部 部長

杉山 隆之

全国農業協同組合連合会米穀部 部長

藤井 暁

協同組合日本飼料工業会 専務理事

高橋 洋

日本農業新聞編集局 副局長・報道部長

岡田 健治

農林水産省農産局穀物課 課長補佐（企画班）

中西 健介

# 「飼料用米多収日本一」実施要領

平成28年4月4日付け27政統第848号  
最終改正 令和5年7月19日付け5農産人第100号

## 1 趣旨

飼料用米については、食料・農業・農村基本計画（令和2年3月31日閣議決定）に定める生産努力目標の確実な達成及び「日本再興戦略」改訂2015（平成27年6月30日閣議決定）に定める、10年後に担い手の60kg当たりの生産コストを5割程度低減させるというKPIの実現に向け、生産性を向上させるための取組が重要である。

これらの目標実現に向けて、飼料用米生産農家の生産に係る技術水準の向上を推進するため、「飼料用米多収日本一」を開催し、生産技術の面から先進的で他の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介する。

## 2 実施主体

本事業は、一般社団法人日本飼料用米振興協会及び農林水産省の共催により行う。

また、一般社団法人全国農業協同組合中央会（以下「全国農業協同組合中央会」という。）、全国農業協同組合連合会及び協同組合日本飼料工業会が後援することとする。

## 3 事務局

事務局は、一般社団法人日本飼料用米振興協会に置くこととする。

## 4 対象地域

全都道府県を対象とする。

## 5 表彰区分

表彰区分に次の2部門を設けるものとする。

- (1) 単位収量の部
- (2) 地域の平均単収からの増収の部

## 6 参加資格

次の要件を全て満たす経営体であること。

- (1) 経営所得安定対策等実施要綱（平成23年4月1日付け22経営第7133号農林水産事務次官依命通知。以下「実施要綱」という。）IVの第2の1の(3)の交付対象者又はそれに相当する取組を行う者であって、飼料用米（多収品種（※1）による取組に限り、種子用を除く。以下同じ。）の生産面積がおおむね1ha以上であること。
- (2) 日頃から生産技術の改善に努め、飼料用米の単収が地域の平均より相当程度高くなることが見込まれること。
- (3) 生産コストの低減や規模拡大など、生産性の高い経営に取り組んでいること。
- (4) 区分管理方式による出荷（※2）を行っており、実施要綱様式第11-2等の根拠書

類によって生産面積及び出荷数量の確認を行うことができること。

(5) 原則として過去3年以内に「飼料用米多収日本一」において農林水産大臣賞を受賞していないこと。

※1 需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領（平成26年4月1日付け25生産第3578号農林水産省生産局長通知。以下「推進要領」という。）別紙1の第4の3に規定する多収品種をいう。

※2 推進要領別紙1の第4の1に規定する区分管理方式による出荷をいう。

## 7 参加申込み及び必要書類の提出

(1) 参加を希望する経営体は、生産年の募集期間中に参加申込書（別記様式1）を、各地方農政局（北海道にあっては北海道農政事務所、沖縄県にあっては内閣府沖縄総合事務局）に設置する飼料用米多収日本一ブロック事務局（以下「ブロック事務局」という。）（別紙）へ提出すること。

(2) ブロック事務局は、提出のあった参加申込書（別記様式1）を取りまとめ、参加資格を満たしているものについて、生産年の募集期間終了後1か月以内に事務局に報告すること。

(3) 参加申込みを行った経営体は、生産数量が確定次第速やかに、推進要領別紙様式第4-13号に記載した生産面積及び収穫量等を基に、生産数量報告書（別記様式2）を作成し、推進要領別紙様式第4-13号等の根拠書類の写しとともにブロック事務局に提出すること。

(4) ブロック事務局は、提出された生産数量報告書（別記様式2）を取りまとめ、事務局が定める日までに事務局に報告すること。

## 8 審査

### (1) 審査委員会

飼料用米多収日本一の審査を実施するため、事務局が委嘱した学識経験者等をもって構成する審査委員会を設置する。

### (2) 審査項目

審査は、次に定める事項について、生産技術の向上又は生産コストの低減等生産性の高い経営に取り組んでおり、先進的で他の経営体の模範となり得るものであるか否かを総合的に判断するという視点で進めるものとする。

① 申請者が自ら経営する水田に作付けした全ての飼料用米の10a当たり収量(※3)

② 生産コスト低減の取組

③ その他先進的で他の経営体の模範となり得る取組

※3 「10a当たり収量」とは、推進要領別紙様式第4-13号に記載された生産面積及び収穫量から算出されるものをいう。

### (3) 審査方法

審査委員会は、参加申込のあった出品調査書に記載された内容等に基づいて、(2)の審査項目に係る審査を行うとともに、必要に応じてブロック事務局による現地調査を行い、総合的に判断して受賞者を決定するものとする。

## 9 褒賞の区分

褒賞の区分は次のとおりとする。

- ・農林水産大臣賞
- ・農産局長賞
- ・全国農業協同組合中央会会長賞
- ・全国農業協同組合連合会会長賞
- ・協同組合日本飼料工業会会長賞
- ・日本農業新聞会長賞

## 10 表彰

- (1) 参加申込みのあった経営体のうち、審査委員会で審査し、特に優秀と認められた経営体に対し、農林水産大臣賞を授与する（副賞含む）。
- (2) 参加申込みのあった経営体のうち、優秀と認められた経営体に対し、農産局長賞、全国農業協同組合中央会会長賞、全国農業協同組合連合会会長賞、協同組合日本飼料工業会会長賞、日本農業新聞会長賞のいずれかを授与する（副賞含む）。
- (3) 経営主の親族又は後継者であって、飼料用米生産への貢献度が高いと認められる者は、経営主と連名で表彰することができる。

## 11 日程は、毎年度別途定める。

## 12 審査結果の公表と表彰事例の普及

事務局は、審査結果を公表するとともに、表彰式を開催する。また、飼料用米の生産拡大の推進に資するため、当該表彰における経営の取組紹介等の情報について、農林水産省ホームページ等に掲載するなど、広く活用するものとする。

## 13 個人情報の取扱い

参加者から提出された参加申込書等に記載された個人情報は、当該表彰及びブロック事務局、都道府県等が当該表彰の一環で行う表彰並びに飼料用米の生産拡大の推進に関連する用途以外に使用しない。

## 飼料用米多収日本一 ブロック事務局一覧

ブロック		事務局	郵便番号	住所、電話番号
北海道	北海道	北海道農政事務所 生産経営産業部生産支援課	064-8518	札幌市中央区南22条西6-2-22 TEL 011-330-8807
東北	青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県	東北農政局 生産部生産振興課	980-0014	仙台市青葉区本町3-3-1 TEL 022-221-6169
関東	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 山梨県 長野県 静岡県	関東農政局 生産部生産振興課	330-9722	さいたま市中央区新都心2-1 (さいたま新都心合同庁舎2号館) TEL 048-740-1011
北陸	新潟県 富山県 石川県 福井県	北陸農政局 生産部生産振興課	920-8566	金沢市広坂2-2-60 (金沢広坂合同庁舎) TEL 076-232-4302
東海	岐阜県 愛知県 三重県	東海農政局 生産部生産振興課	460-8516	名古屋市中区三の丸1-2-2 TEL 052-223-4622
近畿	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	近畿農政局 生産部生産振興課	602-8054	京都市上京区西洞院通下長者町下ル 丁子風呂町(京都農林水産総合庁舎) TEL 075-414-9020
中国四国	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県	中国四国農政局 生産部生産振興課	700-8532	岡山市北区下石井1-4-1 (岡山第2合同庁舎) TEL 086-224-9411
九州	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県	九州農政局 生産部生産振興課	860-8527	熊本市西区春日2丁目10番1号 (熊本地方合同庁舎) TEL 096-300-6212
沖縄	沖縄県	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部生産振興課	900-0006	那覇市おもろまち2-1-1 (那覇第2地方合同庁舎2号館) TEL 098-866-1653

別記様式 1

「飼料用米多収日本一」参加申込書

令和 年 月 日

飼料用米多収日本一〇〇ブロック事務局

氏名（ふりがな）

（集団の場合は集団名及び代表者名）

住所

電話番号

実施要領7の（1）に基づき、別添の出品調査書を添えて、「飼料用米多収日本一」に申し込みます。

「飼料用米多収日本一」 出品調査書

【各項目の記載は、地域再生協議会等へ提出の営農計画書等を元に記載願います】

1 当年産の経営概要

(1)氏名(集団名:代表者名)	(ふりがな)
(2)品種名	※複数の品種を作付けしている場合は、以下項目の記載は合計値を記載してください。
(3)飼料用米作付面積 a	
(経営全体の全水稻作付面積) a	
(全経営面積) a	

※飼料用米作付面積は、「営農計画書等」に記載された面積(飼料用米種子面積を除く)

2 当年産の収量向上の取組(該当に☑を入れてください。複数選択可)

(1)品種の選択理由	<input type="checkbox"/> :多収が期待できる <input type="checkbox"/> :耐倒伏性 <input type="checkbox"/> :耐冷性 <input type="checkbox"/> :耐病性 <input type="checkbox"/> :難脱粒性 <input type="checkbox"/> :栽培し易い <input type="checkbox"/> :作期分散 <input type="checkbox"/> :地域適正 <input type="checkbox"/> :需要者からの要望 <input type="checkbox"/> :その他( )
(2)施肥	①土壌改良資材・基肥 <input type="checkbox"/> :稲・麦わらすき込み <input type="checkbox"/> :緑肥 <input type="checkbox"/> :リン酸資材 <input type="checkbox"/> :ケイ酸資材 <input type="checkbox"/> :塩基(石灰・苦土・加里)資材 <input type="checkbox"/> :鶏ふん堆肥 <input type="checkbox"/> :牛ふん堆肥 <input type="checkbox"/> :豚ふん堆肥 <input type="checkbox"/> :育苗箱全量施肥 <input type="checkbox"/> :主食用米一発肥料 <input type="checkbox"/> :多収品種専用一発肥料 <input type="checkbox"/> :化成肥料 <input type="checkbox"/> :高度化成肥料 <input type="checkbox"/> :BB肥料 <input type="checkbox"/> :液状複合肥料 <input type="checkbox"/> :その他( )
	②追肥 <input type="checkbox"/> :穂肥 <input type="checkbox"/> :実肥 <input type="checkbox"/> :なし <input type="checkbox"/> :その他( )

3 当年産のコスト低減の取組(該当に☑を入れてください。複数選択可)

(1)輪作	①輪作の実施	<input type="checkbox"/> :あり <input type="checkbox"/> :なし
	②輪作ありの場合(品目名)	(前々年産) 品目名( )
		(前年産) 品目名( )
(2)育苗・播種	①播種形式(移植・直播等)	<input type="checkbox"/> :移植 <input type="checkbox"/> :乾田直播 <input type="checkbox"/> :湛水直播
	②育苗・移植のコスト低減	<input type="checkbox"/> :プール育苗 <input type="checkbox"/> :密播(密苗) <input type="checkbox"/> :資材軽量化 <input type="checkbox"/> :疎植 <input type="checkbox"/> :その他( )
(3)施肥	①耕畜連携による堆肥利用	<input type="checkbox"/> :あり <input type="checkbox"/> :なし
	②基肥等の施肥方法	<input type="checkbox"/> :田植え前全層施肥 <input type="checkbox"/> :田植え同時側条施肥 <input type="checkbox"/> :育苗箱施肥 <input type="checkbox"/> :その他( )

	③追肥の施肥方法	<input type="checkbox"/> :散布機 <input type="checkbox"/> :流し込み <input type="checkbox"/> :無人ヘリコプター <input type="checkbox"/> :ドローン <input type="checkbox"/> :その他( )
(4)病虫害防除方法		<input type="checkbox"/> :育苗箱施用 <input type="checkbox"/> :田植え同時側条施用 <input type="checkbox"/> :無人ヘリコプター <input type="checkbox"/> :ドローン <input type="checkbox"/> :その他( )
(5)乾燥・調製コスト低減	①乾燥コスト低減	<input type="checkbox"/> :立毛乾燥させている <input type="checkbox"/> :立毛乾燥させていない
	②乾燥・調製 (ライスセンターやカントリーエレベーター等の共同施設利用等)	<input type="checkbox"/> :主食用と共通のライスセンター・カントリーエレベーター <input type="checkbox"/> :飼料用米専用のライスセンター・カントリーエレベーター <input type="checkbox"/> :自己所有 <input type="checkbox"/> :その他( )
(6)出荷方法		<input type="checkbox"/> :もみ <input type="checkbox"/> :玄米
		<input type="checkbox"/> :フレコン <input type="checkbox"/> :バラ <input type="checkbox"/> :紙袋 <input type="checkbox"/> :その他( )
(7)規模拡大等		<input type="checkbox"/> :集積(作付面積増)している <input type="checkbox"/> :団地化している

4 飼料用米の販売先等(該当に☑を入れてください。)

※販売先が複数の場合、最も出荷数量の多い1社分を記入してください。

(1)販売先名	
(2)流通区分	<input type="checkbox"/> :県外流通 <input type="checkbox"/> :県内流通 <input type="checkbox"/> :自家利用 <input type="checkbox"/> :不明

5 飼料用米の販売価格等(実需者と直接取引を行う場合で、販売価格等を把握できる場合のみ回答してください。)

(該当に☑を入れてください。)

※販売先が複数の場合、最も出荷数量の多い1社分を記入してください。

(1)引渡方法	<input type="checkbox"/> :生産者持込 <input type="checkbox"/> :実需者等引取
(2)輸送費負担	<input type="checkbox"/> :生産者負担 <input type="checkbox"/> :実需者等負担
(3)農産物検査(検査料負担)	<input type="checkbox"/> :生産者負担 <input type="checkbox"/> :実需者等負担 <input type="checkbox"/> :未受検
(4)販売価格(品代) (可能な範囲で記入してください)	品代( )円/kg
	<input type="checkbox"/> :輸送料・手数料等差し引き前の価格 <input type="checkbox"/> :輸送料・手数料等差し引き後の価格
(5)輸送料・手数料等 (可能な範囲で記入してください)	輸送料( )円/kg
	手数料( )円/kg
	その他(〇〇料: )円/kg

別記様式 2

「飼料用米多収日本一」生産数量報告書

令和 年 月 日

飼料用米多収日本一 ○○ブロック事務局 殿

氏名（ふりがな）

（集団の場合は集団名及び代表者名）

住所

電話番号

実施要領 7 の（3）に基づき、別添の生産数量報告書を添えて、提出します。

「飼料用米多収日本一」生産数量報告書

【各項目の記載は、地域再生協議会等に提出している営農計画書等を元に記載願います】

1 当年産の経営概要

(1)氏名(集団名:代表者名)	(ふりがな)
(2)品種名	※複数の品種を作付けしている場合は、以下項目の記載は合計値を記載してください。
(3)飼料用米作付面積(※1) a	
(経営全体の全水稻作付面積) a	
(全経営面積) a	

※1 需要に応じた米生産・販売の推進に関する要領別紙様式第4-13号等の生産面積(飼料用米種子面積を除く)

2 生産数量

全収穫量(※2) kg	
・10a当たりの収量(a)	
(地域の基準単収(b))	
(地域の作況指数(c))	
・基準単収との比較 ( a - (b × c ÷ 100) )	

※2 需要に応じた米生産・販売の推進に関する要領別紙様式第4-13号等の収穫量(飼料用米種子の収量を除く)

3 その他

(1)収量の増減要因 (収量向上に効果の高かった取組や、収量が減少した場合はその要因) (該当に☑を入れてください。複数選択可)	【収量向上に効果のあった取組】 □:品種      □:施肥      □:天候 □:病虫害防除      □:その他(      )
	【収量減の要因】 □:品種      □:施肥      □:天候 □:病虫害被害      □:その他(      )
(2)生産コスト低減の効果 (コスト低減に最も効果が高かった取組を記載)	

添付資料: 需要に応じた米生産・販売の推進に関する要領別紙様式第4-13号等の根拠書類の写し

